

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16223
課題名	下肢神経ブロック下バイパス術の有効性の検討
研究期間	西暦 2017年 5月1日（または倫理委員会承認日） ～ 2021年12月31日
利用する情報、検体	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、併存疾患、内服薬、診断名、検査結果、画像診断結果、手術所見、患者足部写真 <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（
	<p>◆以下の期間に収集した情報が対象となります 西暦 2006年9月1日 ～ 2017年3月31日</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先： <input type="checkbox"/> その他（提供先：
	<p>◆情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 外科学講座血管呼吸腫瘍病態外科学分野 助教 菊地信介</p>
研究の意義、目的	<p>本邦では世界に先駆けて高齢化社会進んでおり、脳疾患や心臓疾患を有する患者さんが多数いらっしゃることは想像に難くありません。少しずつ認知されてきた下肢閉塞性動脈硬化症（脚の動脈硬化）も同様に、患者さんの高齢化や合併する血管疾患も多数であることが大半です。下肢閉塞性動脈硬化症により足部に潰瘍や壊死が生じ治癒しない場合は、血流を改善させる治療が必要です。この血行再建術は身体に負担の少ないカテーテル治療や、外科的手術のバイパス手術などが挙げられますが、上記患者さんの状態によってはバイパス術が優先されるべき場合もあり、この場合は従来人工呼吸器を使用した全身麻酔が一般的でした。しかし麻酔の工夫などから、いかに身体の負担を少なくしてバイパス術を完遂するかが非常に重要な課題であります。下肢神経ブロック下バイパス術は患者さんの負担を少なくバイパスできる新たな術式です。これらの有効性を本研究では検討致します。</p>
研究の方法	<p>過去に人工呼吸器下全身麻酔で膝下以下末梢動脈バイパス術を受けられた患者さんと、下肢神経ブロック下で同様のバイパス術を受けられた患者さんの術前併存疾患、術中術後成績を比較検討し、下肢神経ブロックの有効性を検討します。</p>
その他	<p>特にありません。</p>
個人情報について	<p>利用する情報からは、お名前や住所など、個人が特定できる情報は削除して取り扱いますので、個人情報が外部に漏えいすることはありません。研究成果発表（学会発表、学術論文への投稿）の際にも、個人が特定できる情報は利用しません。</p>
拒否の方法	<p>情報を本研究で利用することについて、いつでも拒否することができます。</p>

	対象となる患者さん（または代理人）より下記までお問い合わせください。
問い合わせ等の 窓口	所属：外科学講座血管呼吸腫瘍病態外科学分野 氏名：菊地信介 電話番号：0166-66-2494